

\*\*\*\*\*

開講科目名：労働法研究（A）（2単位）

開設年次：1年 2年

開設学部：法学研究科修士課程法学専攻

担当者：榊原 嘉明

\*\*\*\*\*

## 《授業の概要》

### ＜授業の目標＞

労働法は、雇用の中で遭遇するさまざまな問題を規律する法の総体のことを指す。その基本的理解と実際の運用能力は、労働者として自らの身を守る上でも、経営者として労務管理等を適切に遂行する上でも、とても重要となる。

そこで、本講義では、その基本的なものの考え方を理解するとともに、実際に雇用の場でリスクに遭遇したときに、法的に考え、予防策・解決策を導きだすことのできる力を身につけることを目標とする。

### ＜授業の内容＞

本講義では、上記目標を達成するために、「ワークルールの基礎」について、テキストの講読・解説と事例問題の演習事例問題の演習などを行うこととする。

### ＜予習・復習の方法＞

予習については、最低限、事前に配布する「予習ノート」の作成すること（所要時間のめやす：1回あたり1時間程度）。また、復習については、最低限、返却された「予習ノート」「練習問題&まとめノート」の見直しを通じて、その後の「実践課題」に備えること（所要時間のめやす：1回あたり1時間程度）。

その他、各受講生の問題関心にそって、下記テキスト・参考書等の熟読等をつうじて、予習・復習をしておくこと（所要時間のめやす：1回あたり2時間程度）。

### ＜評価の方法＞

授業時間内・外における事前準備（Plan:30%）、授業参加（Do:45%）と自己実践（Action:25%）の状況により評価する。さらに、授業時間内・外を通じた「主体性」ある授業参加や計画的に事前準備を行う「実行力」など、自身の受講姿勢に対する振り返りぐあいも追加的な評価要素としたい(Check)。

### ＜授業計画＞

- 第1回 社会科学の中の労働法
- 第2回 労働法をスケッチしてみよう
- 第3回 ★小まとめ：労働法の全体像
- 第4回 働くことの対価
- 第5回 働く時間
- 第6回 休む時間
- 第7回 安全・快適に働く
- 第8回 ★小まとめ：労基法による労働条件規制
- 第9回 働くことをやめる(1) -合意解約・辞職・解雇
- 第10回 働くことをやめる(2) -整理解雇・労働者と損害賠償
- 第11回 働き始める
- 第12回 ★小まとめ：労契法における基本ルール
- 第13回 労使自治と労働者代表制
- 第14回 交渉、紛争、そして終息
- 第15回 ★小まとめ：労組法と労働紛争解決</NAIYO

## 《テキスト》

浜村・唐津・青野・奥田著『ベーシック労働法〔第7版〕』（有斐閣）

## 《参考書》

ア) 基本的な復習（概説書）

毛塚・脇田・米津編『アクチュアル労働法』（法律文化社）

土田道夫『労働法概説〔第4版〕』（弘文堂）  
イ) もう一歩前へ（体系書・判例集）  
野田進『事例判例労働法〔第2版〕』（弘文堂）  
菅野和夫監修『ケースブック労働法〔第8版〕』（弘文堂）  
荒木尚志『労働法〔第3版〕』（有斐閣）  
ウ) 授業中に使用する参考資料  
日本ワークルール検定協会編『ワークルール検定 問題集』（旬報社）  
村中・荒木編『労働判例百選〔第9版〕』（有斐閣）  
小畑・緒方・竹内（奥野）『労働法〔第3版〕』（有斐閣）  
水町勇一郎『労働法〔第8版〕』（有斐閣）